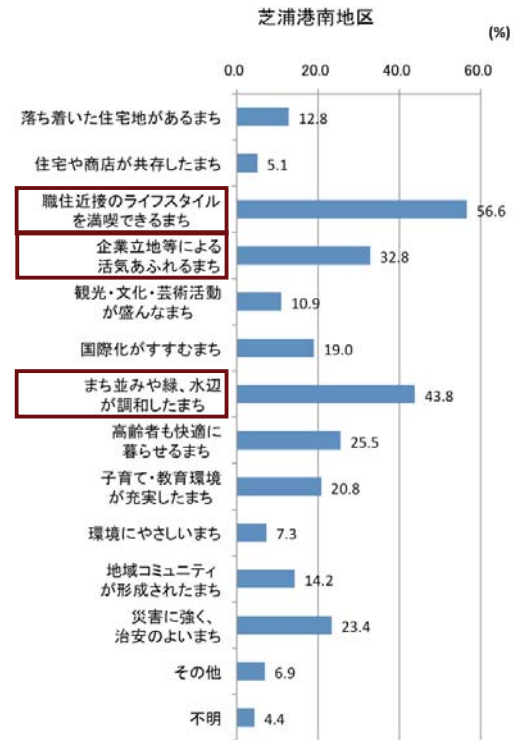
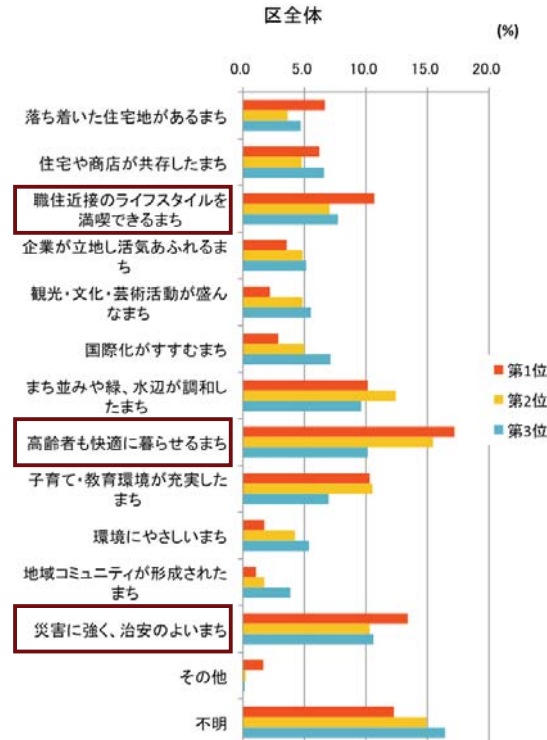


◆◆将来都市像に関する区民アンケートの結果◆◆

現在のまちのイメージ

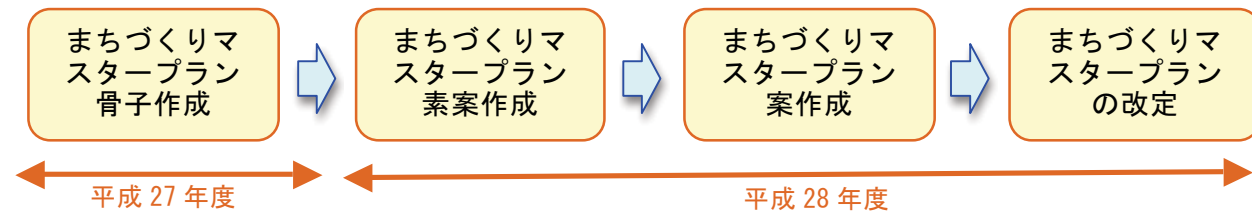


今後のまちのあり方



◆◆まちづくりマスタープランの改定スケジュール◆◆

まちづくりマスタープランは以下のようなスケジュールで改定する予定です。



◆◆次回、第3回意見交換会は以下の日程で開催します◆◆

地区	日時	場所
芝地区	1/14 (木) 18:00~20:00	芝公園区民協働スペース (芝公園保育園内)
麻布地区	12/22 (火) 18:30~20:30	麻布区民協働スペース (麻布保育園内)
赤坂地区	1/12 (火) 18:30~20:30	赤坂区民センター
高輪地区	1/13 (水) 18:30~20:30	高輪区民センター
芝浦港南地区	1/18 (月) 18:30~20:30	芝浦区民協働スペース
台場地区	1/8 (金) 18:30~20:30	台場区民センター

まちづくりマスタープランや意見交換会について感想やご意見などお寄せください！
また、意見交換会への参加者を引き続き募集していますので、ご希望の方はご連絡下さい。
港区 街づくり支援部 都市計画課 街づくり計画担当
TEL 03 (3578) 2235、FAX 03 (3578) 2239
〒105-8511 東京都港区芝公園 1-5-25 (港区役所本庁舎 6 階)

港区まちづくりマスタープラン 意見交換会ニュース

台場地区
No.2
2015.11.12

台場地区での第2回意見交換会を開催しました

平成 27 年 11 月 17 日 (火) の 18 時 30 分から台場区民センターで、港区まちづくりマスタープランについての台場地区での第2回意見交換会を開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

第1回意見交換会では、地区の魅力と課題についてご意見をいただきましたが、第2回意見交換会では、「港区を取り巻く状況の変化」や「将来都市像」について、スライドで紹介した後、「港区は今後どのようなまちになっていくといいか」について意見交換しました。

出された意見を模造紙にまとめ、最後に振り返りを行いました。意見の詳細は裏面をご覧ください。

話し合いは1時間程度でしたが、意見やアイデアを出し合って、活気ある話し合いになり、時間通りに終了することができました。

第3回意見交換会では、「地区の課題や問題を解決するためにどのような取組を行えばいいか」についてご意見をいただく予定です。



まちづくりマスタープランとは

- おおむね 20 年後を目標とするまちの将来像やまちの基本的な方針などを示すものです。
- 区全体のまちの将来像と地区別の特性に応じたまちづくりの方針で構成されています。
- 都市計画や建築、交通などのハード面に限らずバリアフリー、子育て、緑、環境、防災、防犯などのソフト面を含めた計画です。

意見交換会とは

- 地区ごとに開催し、区民の皆さんからきめ細かな地域の情報や実情などを伺い、その地区の課題や計画内容について話し合う会です。
- 各地区 3 回程度開催する予定で、2 回は既に開催しました。3 回めの予定は最後のページに紹介しています。

様々なまちの将来都市像が出されました

※意見交換会の内容を要約・整理して掲載しています。

国際交流・どう向き合っていくか？

- ・国際コミュニティの形成
- ・外国人といえばアメリカやヨーロッパのイメージが強いが、外国人＝英語ではない。
- ・アジア系的人也多くなった。どう向き合い、どう交流・連携していくか。
- ・文化の違い、マナーの違いをお互いに相互理解していくことが大切である。

外国人への情報発信

- ・外国人がまちのことを聞けるステーションがあるといい。
- ・こちらとしても、外国人に道案内できるくらいの英会話ができればいいと思う。
- ・外国人のニーズに応えられる環境づくりが必要である。
- ・いきいきプラザや児童館のように、当たり前前に区に備えられているものとして、「国際交流館」もあっていい時代になっているのではないかな。
- ・港区の歴史についての英語サインや説明などがあるといい。（第三台場など）
- ・日本独自の文化を発信して、体験できて、さらに気軽に交流できる場所があれば、国際コミュニティを作っていけるのではないかな。
- ・芝離宮では英語の音声ガイドがある。そういったものがまちなかにもあればいい。（例えば、スマホをかざせば映像や音声アナウンスが流れてくるような仕組みなど）

誰かに自慢できるまち

- ・区民が区を紹介したり、アピールしたりする機会がほしい。
- ・誰かに自慢できるまちになってほしい。
- ・保養所を区内に作ってほしい。港区をより知ることができる。

【将来都市像】

誰もが交流し、理解し合えるまち （様々な交流・多様性・相互理解）

観光分野の強化

- ・港区はこれまで、京都のように観光だけで食っている自治体では無かったため、観光が今ひとつ弱い。今後は観光にもっと力を入れるべきである。
- ・そのためには観光PRや観光情報発信の基盤整備などが必要である。
- ・公共交通はそれぞれの事業者がそれぞれでやっているイメージ。情報などが一元化されてほしい。

その他様々な将来像

- ・一体感のあるまち（今の台場はあまり区内の他地域と繋がっていない、心理的な距離感がある。）
- ・多様な人材を生かすまち
- ・豊かな文化資源をみんなで共有できるまち
- ・古いものと新しいもの、両方を尊重するまち（相互理解、共存）

圧倒的な利便性を生かした取り組み

- ・ビジネス拠点の国際化
- ・職住商業の一体化（定住志向）
- ・セキュリティの強化（安全・安心の維持）
- ・質の高い行政サービス

気軽に交流できる居場所づくり 世代間交流などつながる機会の創出

- ・行政と区民があたたかく交流・相談しやすくなるまちになってほしい。
- ・集える場所があるまちになってほしい。
- ・区の施設は様々な制約や規制があり、気軽に使うことができない。もっと気軽な交流の場がほしい。
- ・区民が主体でイベントを開催するときに、気軽にお知らせや情報発信が出来る場がほしい。
- ・子どもを持つ世代は、子どものつながりでつながる機会がある。高齢者も様々なつながりの場がある。若い世代や子どもを持っていない夫婦世代などは、誰かとつながりたくてもつながる機会がない。
- ・世代間のギャップへの対応が必要であると思う。例えば、若い人はインターネットで情報を取得しており、高齢者は新聞や区報で情報を取得している。このようなギャップを埋めていかないと、世代間交流もできないと思う。全ての人に対応する環境づくりをしてほしい。

災害時の帰宅困難者への備え

- ・お台場は、来街者が多いまちのため、災害時の帰宅困難者が多く出ると思う。その対応が必要である。
- ・りんかい線、ゆりかもめが動かなくなったら、陸の孤島になる。
- ・お台場は、観光面が強いので、住んでいる人のためのまちづくりだけではダメである。

レインボー公園の活用

- ・レインボー公園で、防災訓練や防災活動のような活動をしたい。
- ・防災面だけでなく、もっと様々な活動ができる場にしたい。

【参考】検討委員会での将来都市像やまちの姿についてのご意見

- 「住み続けられるまち」では、港区の特徴である“職住近接”についても加えてはどうか。
- 「个性的で多様なまち」では、地区の多様性だけでなく、港区の特徴である人々の“多様性”を活かしていくことも加えてはどうか。
- 「安全・安心なまち」では、交通安全についても加えてほしい。犯罪より交通事故は多い。
- 「世界に開かれたまち」という視点を加えた方がよい。大使館や国際企業、ホテル等、日本の国際化における港区の重要性がわかる資料がほしい。

